

「歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男 日吉歯科診療所・熊谷崇の挑戦」を読んで

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科医師 浅井 美里

最初に、おおくぼ歯科クリニックへ勤務して、熊谷崇先生という存在を知れた事に感謝したいと思います。私は、大学の6年間、そして卒後2年間研修をしてきましたが、今の歯科医療をとりまく現状を教わった記憶がありません。私も、なんとなく学生生活を過ごすのではなく、もっとアンテナを張っておくべきであったと大変後悔しています。そして約2年のブランクの後、おおくぼ歯科クリニックへ就職して、8年目を終えようとしています。

初めて参加したチームミーティングに興奮を覚えました。それまで、口腔内カメラもただただ上手に撮影できるように、初診での多くの資料取りも時間内に終わるように、治療も丁寧に、とその場のことだけを考えて行っていました。でも、熊谷先生の話聞いて、TV「プロフェッショナル」や「カンブリア宮殿」、そしてこの書籍を読むことで、私もこんな歯科医師になりたい！やはり歯科医師は素敵な職業だ！歯科衛生士は素晴らしい職業だ！そして、歯科には未来がある！！と思った時に、臨床の目的がはっきりとし、視点が変わりました。勤務医として資料取りや治療をこなすというスタイルでなくなった時に、仕事がとても楽しくなりました。そして、歯科には未来があるようにしか見えなくなりました。

『歯科医師は国から借りているライセンスである。生涯勉強することを辞めた時、このライセンスは国へ返すべきである』熊谷先生のこの言葉は胸に突き刺さります。まだまだ山の麓をウロウロしている身ですが、学べば学ぶほど楽しくなります。経営という心配をせず、打ち込めることに感謝したいです。

今、臨床の中で困難であると実感していることは、『伝える』ということです。治療に関してもメンテナンスに関しても共通するのですが、前回あんなに伝えたつもりが相手には半分も伝わっていない事。どうしたら伝わるのか、そして新しいスタッフ・既存のスタッフにも伝える事の難しさに悩んでいます。書籍の中で、衛生士達は施術中ずっと口も動かしているとあります。もちろん余談ではなく、歯科の知識を伝えているのです。私も時々メンテナンスを行うので、実践してみると、いろいろなところに神経を使いかなり疲労すると実感しました。残念ながら、ピンチヒッターとしてのメンテナンスが多く、その効果は確認できません。治療で何度も足を運んでいただいている方へ毎回説明しているつもりでも、最終的には伝わっていないことも多々あります。『歯科医院とは、本来教育の場である。』書籍の中でOP実践医院として取り上げられていた東京の歯科医師も、『歯科はサービスの場ではなく教育の場である』と書いてありました。そして、全国の歯科医師を指導してくださる熊谷先生の講演前の集中や、講演後疲労されたお姿、（これは書籍を読んで初めて知りましたが）、何より熊谷先生が酒田市民へ予防歯科を伝える事へ奮闘するお姿、ここから、人に伝えるというのは並々の努力ではいけないものであると納得しました。今後ずっと課題となるでしょう。

『教育』関連しますが、子供達は吸収もレスポンスも早いと実感します。そんな子供達の教育にも携わっている事例を聞き、私もこれがやりたい！と意気込んでいますが、なか

なか実行できずにいます。これ一歩でも実行へ移すことを目標に精進していきたいと思いました。

メディアを通してでしたが、歯科に携わる私も、ここから学び考えた事がとても多くありました。ありがとうございました。